

# 地域医療連携室たより

No. 9

信頼と融和で創るよい医療

安全・安心・信頼される公正な医療の実践

発行日  
2008年4月25日

医療法人社団松柏会  
至誠堂総合病院

地域医療連携室たより  
第9号

## 「お年寄り、 地域住民を大切にする病院」へ



高橋 敬 治 院長

### ◇プロフィール

- ・秋田県生まれ
- ・東北大学医学部卒業
- ・山形大学医学部臨床検査  
医学講座助教授
- ・金沢医科大学名誉教授
- ・所属学会  
薬物吸入療法研究会(代表幹事)  
International Society of Aerosol  
Medicine (ISAM 日本支部長)
- ・資格  
日本内科学会 認定内科医  
日本呼吸器学会 功労会員  
認定医、専門医、指導医

平成16年1月に当院の院長に就任し、まる4年が過ぎ、5年目に入りました。院長のこれからの抱負と今後の当院の医療方針について、インタビューをしました。

### 当院のめざす医療とは？

#### 在宅支援を含め、お年寄りのための包括的な医療を

これまでの取り組みを基本として、お年寄り、地域の住民を大切にする病院として、在宅支援などを含めたお年寄りのための包括的な医療を提供できる病院を目指したい。

山形市の人口は25万人。そのなかで病院は6～7箇所、大きな病院もあるわけで、急性期の医療に力を入れてきたい気持ちは山々であるが、そうすれば、特徴がだせなくなる。地域における病院の存在意義を考えた場合、高齢者医療に特徴をみいだしていくことが大事なのではないかと考える。

高齢者といっても前期と後期があるわけで、働きざかりの前期高齢者をフォローできるような病院にしていきたい。

重症の患者が来ても、きちんとケアをして在宅に返してあげられるような病院、そういう意味での医療のレベルと質の向上が大事。たとえば、褥瘡のある状態で入院した患者さんもきちんと直って帰っている。当院には高齢者の入院が多いが、褥瘡が新たにできる割合が少ない。栄養委員会、NST、嚥下チームが栄養管理を含めたお年寄りの包括的な治療の一環として取り組んでいる。在宅から病院へ、病院から在宅へスムーズに送れるようになっている。

## 医療機能評価機構のVer.5.0を取得した意味

昨年(平成19年)1月、当院は医療機能評価機構のVer.5.0を取得した。それを受ける審査のなかで今までこの病院に足りなかったこと、優れていることなどがはっきりした。職員の意識レベルが変わってきたと感じる。

患者さんだけにいいと言われる病院ではなく、他の病院、診療所など医療にかかわっている人たちからも評価してもらえるような病院にしたい。医療の質を上げていかなければと思っている。

## 「孤独な患者さんをつくらない。孤独な職員をつくらない。」

以上のことをモットーにして今までやってきた。そのためには職員が心を通わせて、互いの信頼関係をつくっていくという院内の環境整備が病院の運営には重要。相手をいたわるという気持ちが大事。病院の名前である至誠の心、真心を持ってものごとにあたる。このことを職員ひとりひとりが生活の信条として大切にしてほしい。

## 院長の専門分野である呼吸器医療について

### COPDの知識の普及に努めたい

高齢者が増加すると私の専門分野であるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)が増えてくる。WHOは2020年には冠動脈疾患、脳血管疾患についてCOPDが死因の第3位になるだろうと予測している。私たちの試算では県内7万3千人、山形市内でも1万3千人のCOPD患者がいると予測しているが、実際に医療機関を受診している人は10~20%に過ぎない。

COPDは症状がでにくい。非常に進行してからでないと呼吸困難とか、咳と痰がでにくい。息切れなども年のせいだとかたづけてしまいがち。だから、医療機関を受診する機会が少ない。このため息切れなどの自覚症状がでて受診することが多く、呼吸不全になりかかっていることが多い。COPDの知識をいかに住民に正しく伝えていくかという医療者としての宣伝活動、普及にこころがけ、早期に診断し、治療することが大事だと考える。医療の第一線に携わる開業医の先生に正しい認識をもっていただく努力をしていかないと、早期に患者さんを見つけていくことは難しい。



内科総回診のなかで

### 開業医の先生、行政との関わりを大事に

希望として住民検診の検診項目のなかに「スパイログラム」の項目をいれて、自覚症状のない早期の患者さんを見つけ、予防の対策を取る必要がある。そういうなかで地域の開業医の先生や行政と関わりをもっていきたい。

そのほか、高齢者の直接死因で多いのは「肺炎」であり、「誤嚥性肺炎」が問題である。本院では優れた嚥下機能評価システムができており、この機能を地域の医療機関にも評価して頂くよう「嚥下機能評価センター」を組織していきたい。COPDについては「慢性呼吸不全対策センター」の立ち上げも視野にいれている。

## 過密な院長職のなかでのストレス解消法は？ 孫、犬、花、山、温泉

1つには孫がいること。今年、幼稚園の年長さんになる。2つには、孫より1歳上の愛犬がいること。コーギー種で、名前はリチャード。愛称はリック。毎朝散歩に連れていっている。孫と犬はお互いに競っている？3つには蘭の栽培。夏の手入れをおこたると冬、花が咲かない。シンビジウムは手がかからないが、胡蝶蘭やカトレアは難しい。4つには山歩きも好んでする。最近あまりいっていないが。5つには温泉回りも時々。蔵王温泉にはよく行っているよ。

ありがとうございました。

現在の日本の憂慮すべき医療制度への思い、そして、そもそもなぜ、呼吸器医療を専門にしたか、また、労働局からの依頼の塵肺審査についてはまたの機会に譲ります。



## 糖尿病、生涯満足した生活を

### 患者会が特別講演会を開催

3月15日（土）、大手門パルズにて当院の糖尿病の患者会である誠寿会主催による特別講演会「糖尿病の療養、日常生活を中心にして」が開かれ、69名の参加者でした。講師は岐阜県羽島市民病院の長井孝太郎医師です。当院の菊地正邦医師が20数年前、文部教官として岐阜大学に行った際、5年間医局で苦楽を共にした間柄といいます。長井医師は、ご自分で今回の講演会はお世話になった菊地医師からの卒業試験としておこなわれました。



長井孝太郎医師



糖尿病専門医  
菊地 正邦 医師



糖尿病専門医  
富樫 厚仁 医師



糖尿病担当医  
尾上 沙瑠 医師

### 「世界糖尿病デー」に岐阜城をライトアップ

岐阜県羽島市は人口6万9千人。毎年11月14日はWHOで「世界糖尿病デー」とされています。岐阜県では昨年、その日、「岐阜城」をライトアップし、市民に訴えました。ちなみに山形では霞城セントラルをライトアップしようとする100万円かかるとし、断念。毎年増加の一途をたどる糖尿病の患者、羽島市では糖尿病地域連携パスをつくり、手帳を発行し、市ぐるみで1年に1回合併症の検査をしましょうと取り組んでいることが紹介されました。

治療目標は健康な人と変わらない日常生活の質（QOL）の維持と、寿命の確保として、長寿歌も紹介され、合併症の進展、食事の内容の検討、運動療法の注意点、飲み薬・インスリン療法についてなど患者さんにわかりやすい話がなされました。フロアからも率直な感想と質問もだされ、菊地正邦医師のユーモアたっぷりの司会で終始なごやかにすすめられ、盛会におわりました。

当院には糖尿病の教育入院システムがあります。1週間コースと2週間コースがあります。また、糖尿病の専門の医師が5人おり、糖尿病治療の充実をはかっています。

## 医療サービス改善委員会より

入院患者の三度の食事のはかどり具合も個々、充分にみていただければと思います。

### ▶お 答 え

・残食につきましては、病棟ごと把握しております。また定期的に栄養科の職員が患者さまのもとに食事についての意見を伺うようにしています。食事についてのご希望がありましたら、お気軽にご意見をお寄せ下さい。患者さまの病態によってはご希望にそいかねることもございますことをご了承ください。今後とも病棟と栄養科で連携を図って満足いただける食事を提供できるよう努力いたします。



医療サービス改善委員会 看護部長 篠原明子

## 至誠堂総合病院NST勉強会第20回記念講演会のご案内

今回は、当院NST勉強会の第20回を記念し、日本静脈経腸学会評議員・TNT講習会東北ブロック世話人代表の標葉隆三郎（しねはりゅうざぶろう）先生をお迎えし、「NSTにおける医師の役割」についてお話戴きます。皆さん、お誘い合わせの上、是非、ご参加下さい。

日 時：2008年5月23日（金）18：00～19：30  
会 場：大手門パルズ 3階 柵 橋の間  
内 容：「NSTにおける医師の役割」  
講 師：医療法人伸裕会 渡辺病院 院長 標葉隆三郎先生  
参加費：500円（資料代として）

主 催：至誠堂総合病院 栄養サポートチーム  
世話人：高橋敬治、伊藤英三、毛利勝也  
共 催：ネスレニュートリション株式会社



### ●今後の内容

- 6 / 27 「体液・電解質」大塚製薬工場
- 7 / 25 「NSTにおけるリハビリテーション科の役割」 山形大学医学部附属病院 薬剤部 丘龍祥先生
- 8 / 22 「病態別栄養管理」味の素ファルマ
- 9 / 26 「口腔ケア」富田歯科医院 富田滋先生
- 10 / 24 「NSTにおけるリハビリテーション科の役割」 済生会山形済生病院 言語聴覚士 阿部みづえ先生
- 11 / 28 「摂食嚥下障害」南沼原内科クリニック 渡部郁夫先生
- 12 / 26 「呼吸器疾患と栄養管理」

## 我らが街 木の実町商店街 ①



### 吉田茶舗 ～ほっとするひととき、お茶の時間～

住所：山形市木の実町8-6 TEL：(023) 622-4271

#### ◇吉田美代子さんに聞く

周りを大きなビルやマンションに囲まれ、そのなかに瓦屋根を残し、昔ながらのなつかしい、風情をかもしだすお茶屋さん。吉田茶舗。平成14年に内装などを変えました。なかに入りますと大きな茶を入れる瓶がならんでいます。季節おりおりの風物を店内に飾っています。今はまもなく節句。大きな鯉のぼりや武者人形があります。

平成11年に先代を亡くしてからは息子さんが後を継ぎ、お茶のブレンドや外回りを全部担当。美代子さんはお店番専門です。昔ながらのお馴染みのお客さんがいらして一服。「お茶飲み」が始まります。店内に置いてある椅子が足りなくなる時もあります。この限界で古くからのひとがいなくなっていくのが寂しいといいます。ここでおいしいお茶をいただきました。ほっとする時間です。当院とも取引があります。美代子さん、お元気で。これからもよろしくお願いします。



至誠堂総合病院  
地域医療連携室  
山形市桜町7-44  
023-622-7551  
<http://www.shiseido-hp.jp>  
renkeisitu@shiseido-hp.jp  
発行責任者 至誠堂総合病院副院長 伊藤 英三  
編 集 地域医療連携室

### 編集後記

桃源郷はないのだろうか。様々なわだかまりや、すれ違いを乗り越え、ただひとつ。いい仕事がしたい。(K)